

冬期H 3需要における電源線N－2故障発生時の需給状況

(参考) 冬期H3需要における電源線N-2故障発生時の需給状況

2

- 9月8日に中部エリアで発生した275kV幸田碧南線N-2故障に鑑み、万が一のため電源線N-2故障による電源脱後の状況を今冬H3需給バランスの供給予備率が最小となる月に対して事前に確認した。
- 北海道、関西、中国、九州、沖縄エリアでは、エリア内で確保された予備力で供給予備率3%が確保可能であった。東北、東京、中部、北陸、四国エリアでは、他エリアとの取引等の追加的な需給対策により供給予備率3%が確保可能であった。
- H3需要を上回る高需要発生と稀頻度リスクであるN-2故障による供給力減少が同時に発現した場合等には、本機関による逼迫時の指示を行うまでの追加的な需給対策で対応することとなるが、対策が後手にならないよう、広域機関と一般送配電事業者は各エリアの需給状況の把握とリスク発現の予見に努める。

供給力減少リスク要因と、供給予備力(H3)との比較

(送電端,万kW,%)

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給予備力 最小月	2月	12月	2月	12月	3月	2月	2月	2月	1月	1月
供給予備力	96	142	506	152	58	348	216	67	209	62
供給予備率	19.0%	10.8%	10.6%	6.9%	12.3%	14.1%	21.6%	14.3%	15.0%	61.0%
電源線N-2故障による最大脱落量	▲ 67	▲ 241	▲ 442	▲ 330	▲ 110	▲ 188	▲ 106	▲ 95	▲ 142	▲ 24
エリア間取引等※	—	139 (358)	79 (132)	244 (264)	60 (60)	—	—	42 (53)	—	—
火力機の過負荷運転 契約に基づく需要抑制	—	—	—	—	7 (24)	—	—	—	—	—
対策後 供給予備力	29	40	143	66	15	160	110	14	67	38
対策後 供給予備率	5.7%	3.0%	3.0%	3.0%	3.1%	6.5%	11.0%	3.0%	4.8%	37.5%

※他エリア予備率3%超過分かつ連系線空容量範囲内

※()内は最大対策量

※『—』は、供給予備率3%を確保できるため、対策不要箇所